

地域連携センター報

REGIONAL COLLABORATION CENTER

Vol. 47

令和7年12月発行

県立広島大学

Prefectural University of Hiroshima



Mihara



地域基盤研究機構主催シンポジウムを開催しました

12月14日に県立広島大学広島キャンパスにて、地域基盤研究機構主催のシンポジウムを開催しました。本シンポジウムの実施は、三原地域連携センターが主体となって行いました。テーマを「人生100年時代における健康づくり—県立広島大学と自治体との協働の取り組みの可能性—」とし、一般の方、保健師等の行政関係者、地域包括支援センター職員等の介護関係者を対象に実施しました。本シンポジウムには、広島県内外の保健師等の行政関係者、地域包括支援センター職員等介護保険関係者、高校生、一般参加者など総勢88名（会場参加者40名、オンライン参加者48名）が参加しました。

本シンポジウムの趣旨は、人生100年時代における健康づくりについて、大学、行政、それぞれの立場から協働した取り組みを創造していくことを目指すものです。人生100年時代、ただ生きているのではなく、各自が自分らしくどう生きるかが問われており、あらためてQuality of Lifeの向上が重要となっています。私たち人間の健康に大きな影響を与えるものとして、近年、「健康の社会的決定要因」（個人または集団の健康状態に違いをもたらす政治的、経済的、社会的状況）に関心が寄せられており、誰もが「健康」と「その人らしい生活」を享受できるように取り組むことが社会的課題として認識され、各自治体、広島県でも取り組みが進められています。

本シンポジウムは、これまでの県立広島大学と自治体の共同の取り組み、広島県の健康づくりに向けた取り組み、さらに、介護予防事業等で先駆的取り組みを行っている大分県の取り組みと課題について、現場の介護支援専門員の立場から情報提供をいただくことで、今後の目指す方向性を参加者と共有することを目的に開催しました。

冒頭、荻田信二郎地域基盤研究機構長が挨拶を述べ、続いて、金子努三原地域連携センター長より趣旨説明を行いました。



〈武内様、飯田教授、積山准教授、河田様〉



前半の講演では、広島県健康福祉局健康づくり推進課課長の武内 聡様、保健福祉学部保健福祉学科理学療法学コースの飯田 忠行教授に、後半は、保健福祉学部保健福祉学科理学療法学コースの積山 和加子准教授、NPO 法人大分県介護支援専門員協会理事の河田 研吉様にご講演いただきました。

〈特別講演題目〉

敬称略

講演順	題目	シンポジスト
1	広島県における高齢者の健康づくり施策の概要	武内 聡
2	県立広島大学と自治体の協働による健康づくり支援－地域課題に即した取組み－	飯田 忠行
3	県立広島大学と自治体の協働による高齢者の健康づくり支援－尾道市における取組み－	積山 和加子
4	健康づくりをケアマネジメントの視点から考え直す	河田 研吉

質疑応答の時間では、参加者からの質問に、各地域の行政関係者や介護保険関係者等それぞれの立場から健康づくりへの取り組みや課題について提示され、課題を共有する貴重な機会となりました。

最後に、金子三原地域連携センター長より挨拶が述べられ、会場から盛大な拍手に包まれる中、本シンポジウムは幕を閉じました。

また、シンポジウム終了後には、希望者を対象に、コツコツ健康増進号による骨密度測定、In Body 測定（筋肉量、脂肪量、体水分等測定）の体験会を実施しました。参加者からは、「様々な形の健康支援があることを改めて感じ、保健師として何ができるのか考える良い機会となった。」「高齢者の健康増進のためにどのような取り組みを行っているのか具体的な内容とそれぞれの効果を詳しくご説明いただき、大変勉強になった。」「県立広島大学がどのような取り組みをしているかを改めて深く知ることができた。」等のお声をいただきました。

最後となりましたが、ご講演いただきましたシンポジストの皆様、ご参加いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

令和7年度公開講座開講報告

本年度、三原キャンパスでは公開講座を6講座、開講しました。

受講後のアンケートでは、「普段知ることのできない話が聞けて良かった。」「最新の専門的な知識も分かりやすく丁寧に解説していただいた。」「工夫を凝らした講座で有意義な時間を過ごすことができた。」等、多くの受講生から好評いただきました。

	講座名	講座代表
1	第12回海浜健康講座_概論編と実践編	理学療法学コース 教授 金井 秀作
2	明日からととのう！ アンチエイジング	診療センター センター長補佐 田口 亜紀
3	メンタルヘルスのための ストレスケア講座	作業療法学コース 准教授 織田 靖史
4	高齢者に生じるコミュニケーション障害の理解とその支援～コミュニケーションを楽しむために～	コミュニケーション障害学 コース 教授 坊岡 峰子
5	女性の健康セミナー ～更年期以降を健康美人に 過ごす～ (後援：三原市)	助産学専攻科 講師 奥山 葉子
6	医療処置を受ける子どもと 家族の小児看護リフレク ション講座	看護学コース 教授 松森 直美



〈女性の健康セミナーの様子〉

令和7年度履修証明プログラム活動報告

三原地域連携センターでは、公開講座等を活用して教育研究成果を提供している他、令和4年度からより積極的な社会貢献を促進するため、社会人等を対象とした学習プログラム【履修証明プログラム】を開設しています。

本年度は、二つのプログラムを企画し、募集しました。今回は、現在、開講中のプログラム「Family Reconstruction Support Program（家族再構成支援プログラム）」についてご紹介します。

なお、6月から開講予定としていた主任介護支援専門員を対象としたスキルアップ講座「スーパーバイザー・レベルアップ講座」については、募集定員に達しなかったため、不開講となりました。

プログラム名称: Family Reconstruction Support Program
(家族再構成支援プログラム)

プログラム責任者: 人間福祉学コース・准教授・大下 由美

令和7年7月から、第4期のプログラムは、2名の履修生を迎えスタートしました。今年度も、履修生の実践分野や背景資格は異なりますが、家族関係の再構築を支援する役割がある専門家の皆さまに履修していただいています。このプログラムは、概ね月1回のペースで令和8年6月までの1年間で、家族関係の再構築の理論と技術を学ぶプログラムです。このプログラムの特徴は、システム論と言語行為論をベースにした支援の基礎理論編、変容技法論編、実践編の3部構成のプログラムを提供している点です。中でも実践編では、履修生の実践での課題解決をプログラムの中に組み込んで、学修していける実践的なプログラムを提供しています。視野に入れた学修内容は、他では体験できないその時の受講生との相互作用を活用したプログラムになっています。



〈受講生と大下准教授（右）〉

本プログラムの修了生や履修中の方からのコメントをいくつかご紹介します。「受講生の逐語をもとに理論的な解説と実践への応用を学べるため、日々の実践の根拠について考えさせられました。また、受講生同士の議論を通し、自らの実践を振り返る機会を得、それを現場に持ち帰り実践することで、ケースが実際に動いていくので、理論と技術を結び付けて学修できて良かったです。(令和6年度修了生)」、「このプログラムを履修して、自分が積み上げてきた面接が、支援者主導で、支援者が適切と思う資源へつなぐ支援になっていたことに気づきました。そして、「逐語」として面接を記録し、振り返る課題に取り組むことで、クライアントの語りを聞き逃さないように聞く技術を身につけることができました。出口が見えない困難事例でも、クライアントのできる力を見つける面接をしているという実感を持てるようになりました。(令和6年度修了生)」、「令和6年度・令和7年度と連続で受講しています。継続して受講することで、理論的枠組みの本質的な理解が深まってきていると実感しています。継続受講することで、多分野の方の実践も学ぶことができ、自分の実践に関わる新たな気づきを得ることができています。」

このプログラムは、少人数で行うため、履修生の皆様が直面されているリアルな課題で学びを深めていくことができます。そのため、即実践に応用していくことができます。家族支援に取り組まれておられる専門家の皆様と、本プログラムで出会えることを楽しみにしております。

「青少年育成カレッジ」総合講座 「生涯にわたるコミュニケーションと意思 表出(決定)の支援」

保健福祉学部は公益社団法人青少年育成広島県民会議と連携し、毎年「青少年育成カレッジ」を開講しています。本講座は広く青少年に関わる活動や仕事をしている方、青少年育成活動に関心のある方を対象に青少年の心と健康、行動などを理解し、すこやかに育むための知識や手法を学ぶことができる講座となっています。

本年度は、10月11日にサテライトキャンパスひろしまにて、保健福祉学部コミュニケーション障害学コースの細川淳嗣講師が「学習に困難をもつ子どもの特徴とそのライフステージにそった支援」について開講しました。午前の部では、発達障害と関連して学習に困難をきたす例を取り上げ、その障害の特徴と小学校就学前後から高校卒業までのライフステージに沿ってどのような困難さがあり、どのような支援があるのかを講義し、午後の部では、小グループに分かれて複数の模擬事例での演習を行いました。

さらに、11月8日には、同じくサテライトキャンパスひろしまにて、保健福祉学部人間福祉学コースの永野なおみ准教授が「意思決定支援の基本的な考え方と実際の進め方」について開講しました。「意思決定支援」は、認知症や知的障害等により自分自身で判断することが難しい方のために、その意思や価値観を尊重する目的で行われてきましたが、近年は全ての方を対象とするものになっています。午前の部では、その基本的な考え方や方法について講義し、午後の部では、小グループでの事例検討や意見交換を通して、意思表明、決定を実際に支援する過程と意義について講義を行いました。

今後も、受講生の皆様に満足していただける講座が開催できるよう取り組んでいきたいと思ひます。

編集後記

地域連携センター報第47号をお届けします。

本号では三原地域連携センター主催シンポジウム、公開講座、履修証明プログラム、青少年育成カレッジについて紹介しています。

三原地域連携センターが初めて担当した地域基盤研究機構主催シンポジウムについて、無事に開催し、盛会のうちに終了することができました。ご協力をいただきました関係各所の皆様、ご参加いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

今後も地域の皆様と協働し、連携活動を推進して参りますので、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。

編集発行



県立広島大学地域基盤研究機構地域連携センター
〒734-8558 広島県広島市南区宇品東1丁目1番71号
電話 (082) 251-9534 / E-mail: renkei@pu-hiroshima.ac.jp
<https://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/>

各キャンパス問い合わせ先

地域基盤研究機構庄原地域連携センター
〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562 番地
電話 (0824) 74-1000 / E-mail: gakuju@pu-hiroshima.ac.jp

.....
地域基盤研究機構三原地域連携センター[本号編集担当]
〒723-0053 広島県三原市学園町 1 番 1 号
電話 (0848) 60-1120 / E-mail: mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp